

1) 中間所得層を狙った消費財およびサービス分野の市場を狙った投資の拡大が見込まれる。

2) 増加が見込まれるM&A型投資

M&A型投資も増えると見込まれる。ASEAN諸国の企業も「力」をつけ、ASEAN域内への進出意欲は強く各国の対外直接投資が増えている。華人系企業も多く、地元の有力企業を資本参加、買収するだけでなく、合弁で事業をするなど、中国企業にとってASEAN地域への進出形態が多様化する。また、ASEAN諸国に展開している欧米企業が事業の見直しや統廃合の機会には、中国企業が有力な『買い手』先になる可能性が高い。

3) M&Aで獲得した欧米系企業の子会社活用

米国、欧州の多国籍企業を買収し多国籍企業の経営ノウハウを生かし、米欧子会社からの投資拡大は、今後拡大すると見込まれる。

中国企業の対ASEAN市場でのターゲットは今後増加が確実な中間層、中間高所得層である。そのために日本の電気機器メーカーの拠点をとりいれ、急速に広まっている越境ECサービスを活かし、自動車分野に広げている。日本の企業も中国子会社をいかに活用し、消費市場としてのASEAN市場をどう取り組むのが課題になる。

注

- 1 【事例】 本稿でとりあげた事例の多くは、進出先での報道や各社のホームページを参考にした。正確を期すために可能な限り複数の情報源等で確認をするよう努めている。ただし、中国側の投資承認審査による確認は十分ではない。
- 2 【AIIBの状況】 2016年末時点の年次報告書によると、出資約束額（約903.3億ドル）に対し払込資本金は約2割（約180.7億ドル）にとどまる。しかも未収金（約110億ドル）があり実際に払込が行われている金額は70.6億ドル程度で、その大部分が実際の貸出に回していない状況にあった。